

2025 年度 学校法人 三幸学園 名古屋ビューティーアート専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 植野 いずみ

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(ア) 【教育】1 年生退学率減／接客マインドを持った人材育成

- ・「学校が好き」と学生に感じてもらいたいという想いの元、教職員間で連携をし、「学習者中心の教育」を目指す事に重点を置いた。また、社会に出たときに愛される人材を育成していくことに共通認識を図り、学生が利他的なマインドを持てるような働きかけを意識した。

(イ) 【教職員】情報共有、一体化に向けた強化

- ・teams を活用し、教員間で学校情報・学生情報を共有し、担任講師間の報連相強化を図った。
- ・教科毎の会議を定例で 1 年間の中で複数回実施し、講師の声を吸い上げながらよりよい授業運営をしていけるような取り組みを強化した。

(ウ) 【授業運営】時間厳守・規律保持・ルール遵守の徹底

- ・号令、挨拶、環境設定、聴く姿勢など入学時オリエンテーションの指導内容と教務指導のルールを徹底した。
- ・社会人としての言葉遣い、態度、学生対応を再確認し、ハラスメントに発展しかねない指導や圧力(威圧的な態度・適切な言葉選び)になっていないか教職員全体で注意を払った。人として尊敬されるような言動を改めて考えた。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学校の理念や目的・人材育成像(ディプロマポリシー)に関しては、三幸学園全体で発信されており、また、各学校の教育目標、育成人材像等も分野によって方向づけられているので、学園全体として取り組んでいる。学生・保護者への周知に関しても、オンデマンド形式で入学前に保護者説明を実施し、学生に向けてはスタートアッププログラム等で周知を行っている。

② 今後の改善方策

大きな改善点はないが、次年度からは保護者向けに定期的な配信ができるように、保護者向け情報発信のアプリを導入。より学校の状況や学生の様子を保護者がとらえやすいような仕組みをつくっていく。成人といえど学生である事から、うまく保護者・保証人を巻き込みながら、無事に卒業・進路決定・資格取得ができるようなサポート体制をより強化していきたい。

② 特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

学園組織として、人財部や教育開発部、情報システム部が基盤の整理を行っており、その内容を基にした学校運営がなされているため、大きな改善点は現状は発生していないが、特に ICT 関連については、教職員のリテラシーをより高めていき、より業務効率を図っていけるように進めていきたいと考えている。

② 今後の改善方策

大きな改善点はなし。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

学生数が年々増加傾向にある中で、その分より多くの専門人材の教職員配置が求められる。人材の確保においては、年間を通して採用募集を行っているが、学生満足度向上(授業の質の担保)の為に、常に人材確保が求められる現状である。

② 今後の改善方策

昨年度から継続ではあるが、卒業生との繋がり確保。特に国家資格学科においては、美容師免許取得後に休眠している美容師や、現場を一時的に離れている方もいるため、そのような卒業生の帰る場所としても学校教育に魅力を感じてもらい採用に繋がる訴求をしていきたい。企業様との繋がりの中で、卒業生の状況把握や連携を図れる機会を仕組み化できるようにしていきたい。

③ 特記事項

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

就職については、就職率ならびに業界内就職率も問題ない状況である。資格については昨年度の課題として美容師国家資格の筆記試験が課題としてあげられていたが、2025年度はその改善に向けて、個別の対策を強化し、例年以上の結果を出す事が出来た。また、卒業生の社会的活躍という点では、卒業生によるオンラインセミナーを実施したり(ネイル関係)、業界で活躍する卒業生を、1年生の初期教育として年度頭の集中講義期間に講話に来ていただいたりと、連携した取り組みを学科毎に行う事ができた。

最も大きな課題は、退学率の軽減にあたっての取り組みが改善に向かえなかった点があげられる。

② 今後の改善方策

2026年度においては、継続してオンデマンド授業・ハイフレックス授業を用いていく。入学して初めの半年は特に、週3～4登校を実現することで、徐々に学校生活に慣れていくための仕組みを継続する。また、退学示唆があった際に早期に担任が面談を行っていくことは勿論のこと、クラス内での調和に力を入れ、学生同士で支えあい高めあえるようなクラス運営の実現を目指していく。その為の担任向けのケースワークや事例共有等の情報交換の機会を2026年度は重点的に行っていきたい。また、業界で活躍する卒業生の姿を沢山在校生が見れる機会を増やしていき、目標喪失の軽減を図っていきたい。

③ 特記事項

2025年度と同様に、2026年度も4月の授業開始前に、外部ゲストをお呼びしての特別講話を全校学生向けに実施した。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

在校生に対しての進路、就職支援の体制は整備がされており、年間での計画を基に動いている現状ではあるが、卒業生への支援体制はまだまだ構築途中である。同窓会支援の制度や、卒業生ライングループなどの存在はあるものの、より活発に発信をしていきたい。

② 今後の改善方策

今後、卒業生を学校に呼んでの同窓会の実施を検討していきたい。（大規模なものではなく、対象年度を絞って実施するなど）また、2025年度は卒業生を講師としたセミナー等を在校生に向けて実施することが複数回できたので、今後は対象を在校生のみならず卒業生に広げて、学びなおしの機会や母校に戻る機会を増やし、より沢山の接点を持っていけるように進めていく必要がある。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

施設・設備面は学校内でも担当を定め、有事の際に迅速に対応できるようなシステムをつくらせている。また、一部校舎内の教室を改修し、学生が学びやすい空間づくりに取り組むことができた。

学内外の実習や海外研修の機会についても、大きな課題感なく進められている。施設実習については全学科1年生が1月に参加をしているが、一度に300人以上の学生を外部サロン様へ送り出す為、学生の事前教育や事務的な連携をより精度を上げていく必要があると考える。また海外研修についてはこれまでの短期韓国留学やロンドン海外研修に加えて、韓国留学の実習も整備された。学生満足度も高く、次年度も継続していく予定である。

② 今後の改善方策

実習の進め方について、事前指導の質向上(短期間の実習の中で、学生に何を学ばせるか)をサロン様とも連携し取り組んでいきたい。

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

愛知県の規定に沿って適切に募集活動を行っているため大きな課題は無い。2025年度は養成学科の定員充足による募集停止も発生したので、受験希望者の不利益にならないような配慮、事前周知等を引き続き徹底していく。

② 今後の改善方策

今年度も、募集定員の充足状況については、HP や SNS への掲載とオープンキャンパスで早めに告知を行う。また学園の広報部署とも連携をし、高校への早めの告知(周知)・連携を行い、信頼関係の構築を図っていきたい。

③ 特記事項

昨年同様になるが、トータルビューティー科・エステティック科にはメイク・エステ・ネイルの技術や知識を学んだあとに、プラス1年で美容師免許を取得できる研究科がある。美容師免許取得のニーズが高まっているため、募集活動の際広く知ってもらう広報活動を充実させる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画<第2.0版>を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・学生数、教職員数も増え、学園の中でも大規模校となっている。扱う個人情報も必然的に多くなるため、引き続き全教職員に対して個人情報の取り扱いとコンプライアンスの遵守徹底を働きかけていく。

② 今後の改善方策

- ・引き続き、会議や研修、掲示物等を通じて、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。
- ・残業時間の軽減に向けて、業務効率化もアクションプランとして実行していく。

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

大きな課題感はないが、引き続き学内のみでは学べない教育効果の高い社会貢献、地域貢献をサロンワークの授業や模擬サロンとして行っていきたい。現状はトータルビューティー科がパーソナルカラー体験、ネイル・エステ体験等を活発に行えている実績があるので、養成課程の学科でも美容師法の範囲内で実施できる外部活動を検討していきたい。

② 今後の改善方策

2026 年度は美容科においても学びのアウトプットを美容師法の範囲内で出来るモノを検討・実施していく。（学内で授業の一環として、保護者様に向けた施術を行うなど）

③ 特記事項

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の入学は毎年数名程度、積極的な募集活動は行えていないことが課題である。

② 今後の改善方策

当法人でも留学生の入学は増えてきているので、当校においても今後留学生が増加した場合を想定し支援体制作りを進めておきたい。また、留学生に対する進路(就職)斡旋の強化と情報収集を行っていく。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2025年度の課題に対して、手を打てたものと、まだまだ改善に至っていない課題感も勿論多くある。今後も入学してくれた学生が、「この学校に入学してよかった」と感じられる、学びがいのある学校づくりに努めていく。また学校としても新カリキュラムの準備が始まり、様々な産学連携活動が活発に動いていっているのも、部門講師・メンバーの一体化を大切にしながら学校運営にあたっていきたい。本日の会議を通して、我々が日頃から大切にしている心の教育と、現場で求められる人物像の接続について改めて考える機会になった。